

【人文・社会】ご担当者様

2月20日出荷開始  
配本なし／ご注文数のみ出荷いたします



dZERO ディーゼロ

2月新刊のご案内

## ヘイト本をめぐる、10年にわたる自問自答の軌跡

# 明日、ぼくは店の棚から ヘイト本を外せるだろうか

書店員、元ジュンク堂書店難波店店長 福嶋聡

著者はおよそ10年間、「ヘイト本」という現象をめぐる「書店の役割」を自問自答しつづけてきた。書店は「言論のアリーナである」という帰結を見出したと思えたが、葛藤が消えたわけではない。60冊を超える書物から言葉を引きながら、「ヘイト本」をめぐる自問自答の軌跡を披歴。「書店とは何か」——40年以上にわたる葛藤や決意の収斂。書店員という枠を超えた思索の書。



### 【目次】

- I 明日、ぼくは店の棚からヘイト本を外せるだろうか  
「アリーナ論」の発端／『NOヘイト!』フェア顛末記 他
- II ただ嘆きだけで、終わってしまったのではないだろうか  
敵側の言説／対峙姿勢／書店の棚と民主主義 他
- III その本はなぜ、多くの人を惹きつけるのだろうか  
「正義」の争い／公開対決の場 他
- IV 「わからない」は、何を意味するのだろうか  
沖縄の戦後史を学ぶ／差別の相対的構造 他
- V やはり発端は、「自分探し」ブームだったのだろうか  
「アリーナとしての書店」の絶対条件 他
- VI 弱者攻撃の動機は、どこから来るのだろうか  
書店を「言論のアリーナ」と呼ぶ所以／反差別の発信 他
- VII ヘイトスピーチ・クライムの厳罰化は、なぜ進まないのだろうか  
ヘイト言説と向き合う場／「動かぬ証拠」としての書物 他
- VIII 書店は、「言論のアリーナ」になりうるのだろうか  
「ヘイト本」の放逐が意味すること／「加害者の側に立てる勇気」とは 他

▼弊社刊行物は書店様との直接取引で出荷しております。物流と決済はトランスビューが代行いたします。都度請求（返品不可・送料元払い・郵便振替同梱）にも対応させていただきますが、簡単なお手続きで今すぐ継続的な直取引（返品可）が可能です。

▼取次経由（買い切り・返品不可）をご希望の場合は、八木書店を通じてご指定の取次に出荷いたします。

直取引代行  
トランスビュー

\*ご希望の出荷方法にチェックマークをお入れください

直取引（返品可。初めての書店様には小社よりご連絡いたします）

取次経由（返品不可）

● 書名：明日、ぼくは店の棚からヘイト本を外せるだろうか	ご注文数	貴店名
● 著者：福嶋聡		
● 発売・出荷開始：2024年2月20日		
● 定価：本体3000円＋税		
● 判型・ページ数：四六並・448ページ		
● ISBN：978-4-907623-67-8	冊	ご担当 様

ご注文→ FAX: 0120-999-968 または BookCellar で  
お問い合わせ (dZERO) → TEL: 043-376-7396 Email: info@dze.ro